



第 1 号

発行 福島県立ふたば未来学園高等学校
保護者と教師の会

所在地 〒979-0403
福島県双葉郡立野町大字下浅見川
字築地12

編集 PTA 広報広報委員会

印刷 八幡印刷株式会社

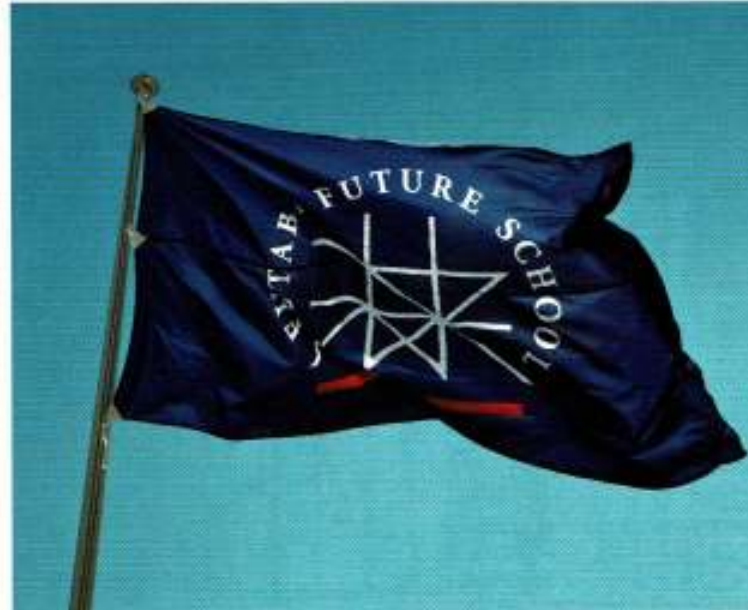


ふたば未来学園の歌

学ぶ覚える身につける
胸に落ちるまで考える
深くて広い心と体
未来に向かうこの自分
すこやかにしなやかに

地球に生きる人はみな
違うからこそ面白い
遠くて近い私とあなた
自分を生かすそれぞれに
なごやかにたくましく

この故郷に根を張って
目指す世界は限りない
色とりどりの自然と文化
支え合ういのちのちのち
のびやかにおおらかに



校長先生インタビュー

「変革者たれ」

「変革者たれ」とは、開校にあたって校長先生から生徒へ向けられた感動的な言葉です。私たち広報も「変革」をキーワードに、よくある学校新聞の校長挨拶ではなく、現在のありのままの想い、校長先生自身のこと、インタビュという形にしてみました。

④ 入学してきた生徒たちにはどんな印象がありますか？

「とても素直でいい子が多いなあというのが率直な印象です。入学当初は様子うかがいながら過ごす子もいたのですが、それぞれいろいろな想いを背負いながらも、今は積極的に学校生活に取り組んでいると思います。」

⑤ 諸先生方に対してどんな印象をお持ちですか？

「大変優秀な先生ばかりだなあと感じています。若手からベテランまで、生徒一人一人と向き合おうとしてくれています。特に、アクティブラーニングという未来的な授業を取り入れようと提案したところ、すぐに行動に移してくれて、本当に情熱的な先生ばかりです。」

⑥ 応援団講師、早田オリザさんの特別授業などを受けて、子供たちに何か変化がありましたか？

「本当に大変そうでした。意欲的な生徒もいれば辛そうにしている生徒もいて、仲間同士で温度差があったと思います。社会に出たらそんな状況が多いですから、演劇で表現すること。」



との難しさを感じ、生徒たちが葛藤している姿が素晴らしいと思いました。論理的な筋道立てたものではないので、子供たちのいろいろな可能性が引き出せて、新しい自分を発見できた生徒もいると思います。」

⑦ アカデミック、スペシャリスト、トップアスリートの3つの系列のこれらについて。

「アカデミック系列の生徒は、進路目標を早めに設定し、個の力を伸ばしていきたい、スペシャリスト系列は、農業、商業、福祉の実習授業をメインに、資格取得への学習を充実させた。アスリート系列の生徒は、一流の先生の指導を受けながら、スポーツを通して地域に貢献できる人材育成に力を入れたいと思っています。」

⑧ 校長先生自身、教育者として常に思うこと、心掛けていることは何ですか？

「子供には、自分を変えていく力が必ずあるので、それを「信じる」というのが教育的備前です。」

⑨ 生徒、保護者、地域の皆様へメッセージをお願いします。

「生徒一人一人の変化、一人一人の物語をともに綴っていきたくと思っています。その物語を多くの人へ伝えることが、福島そして、日本の希望になっていくはず。私たちは、ふたば未来学園の歴史の始まり、冒険にいます。輝かしい未来に向かって共に歩んでいきましょう！」

題字について



これは、開校式の際、東京藝術大学の宮田亮平学長が本校生徒に向けて揮毫してくださった文字です。宮田学長がこの文字に込めてくださった「一世界に向かって、羽を広げて、飛びぬけ、かけぬけ、天翔けてほしい」という生徒へのメッセージ、そして、このふたば未来に関わる方が、生徒たちを「両手を翼のように広げて、しっかりと支え、抱きしめてほしい」というメッセージは印象的でした。初心を忘れず、未来を見据え、伝統を築いていきたいという思いから「翔」を会報の題字としました。

いわき市の勿来海洋の近くで生まれ育ち、海岸で貝などの化石を見つけては、太古の世界と「今」という未来が繋がっていることに胸を躍らせ、将来は考古学研究をしたいと思っていたその少年は、今や「未来創造型教育」を力強く展開する、ふたば未来学園高校の校長として学校の歴史にその名を残すことになる。

人思いやる優しさ、心の奥深さ、ユーモアもあり豊かな人間性を感じるこの出来る、丹野純一校長。

私たち広報のインタビュに、快く応じていただき、本当にありがとうございました！これからふたば未来学園高校の子供たちを、よろしくお願いたします！！

本校舎

☆水曜日(1組)の時間割☆

	8:40 - 8:45	SHR
1	8:50 - 9:40	数学
2	9:50 - 10:40	スポーツⅠ・Ⅱ 家庭 情報 英語
3	10:50 - 11:40	
4	11:50 - 12:40	LHR
	12:40 - 13:15	昼休み
	13:15 - 13:25	SHR
	13:25 - 13:40	清掃
5	13:45 - 14:35	
6	14:45 - 15:35	産業社会と人間

本校舎生は、水曜日午後、「産業社会と人間」の授業を行っている。ここでは双葉郡の小・中学校で実施されている「ふるさと創造学」の継続・発展的な学習を行う。前期のテーマは「ふるさとを知る・ふるさとを表現する」。

これまで、平田オリザ先生のご指導のもと、演劇制作に取り組み、予定だ。アート、祭、ドラマ、スポーツの4つでそれぞれ応援団の講師の方の指導を受ける。



★ふたばの教育復興応援団の先生方による授業★

●4月〜7月

平田 オリザさん

「ワールドワークを通じて、面白く&考えさせる演劇をつくる」



演劇を通じて、多様な価値観を認め合い、思考を深め、またその考えを社会に伝え、問いかけていく力を養うことを目的とし、約3ヶ月間ご指導をいただいた。生徒たちは、広野町の各所にワールドワークに向

き、町の人々の声を聴くことから始め、今地域が抱える課題を考え、「演劇」という形で表現した。

今回の指導でオリザ先生は「対話」について次のように教えてくださった。人と人が理

●6月11日(木)

為末 大さん

「スポーツⅡ・Ⅲ」授業
「トップアスリートのためのキャリアアップ」と実践」



解しあえるという前提はない。理解しあえないから当たり前で、「伝わらない」という口惑いから出発し、語り合う中で共有できるところが少しずつ分かってくるものだ。「心からわかりあえないんだよ、すぐには」

高校3年間の目標設定の大切さについて講義をいただいた後、日々のトレーニング方法について、実技の授業をしていただいた。

●8月20日(木) 双葉郡中高交流会

箭内 道彦さん

「180人で12番までの1曲のTwo Shotを作ろう」



双葉郡内の中学、高校の生徒が初めて一堂に会した。繋がりや一体感を感じる忘れがたい経験をつくろうと、誕生月ごとに12のグループを作り、それぞれ歌詞を考え、最終的に12番までの1曲の歌が完成し、代表生徒が前に出てその歌詞を歌い上げた。

●8月26日(水)

山崎 直子さん

客観視する力を学ぶこと。2つ目に「地球もひとつの宇宙船」(多様な人たちとどううまくやっていくか、限りある資源をどう活かすかという視点を学ぶこと)。今回教えていただいたことを胸に、今後の学校生活を有意義なものにしてもらいたい。



宇宙飛行士としてのご自身の経験から、主に2つのことを教えてくださいました。まず、「地球の常識は宇宙の非常識」(自分の置かれている立場や今当たり前にあるものがあるもの

前期の主な学校行事



JFAアカデミーが参加する大会の仕組み

男子サッカー

女子サッカー



※男子はU-18のリーグに所属。現在は、2チームに分かれ、高校男子サッカー最高峰の「プレミアリーグ」と、「東リーグ」でそれぞれ試合に出場している。
 ※女子は、社会人や大学生のチームと競う、なでしこリーグ1部は、女子サッカーのトップリーグで、準選手を擁する「NAC神戸」も所属している。



部活動の結果

- ◇男子サッカー部
 - ・高円宮杯U-18サッカーリーグ2015
 - 男子プレミアリーグEAST
 - 3勝9敗1分で現在9位 (10チーム中)
 - 男子東リーグ
 - 10勝4敗2分で現在3位 (10チーム中)
- ◇女子サッカー部
 - ・2015プレナスチャレンジリーグWEST
 - 6勝6敗1分で現在2位 (6チーム中)

☆水曜日(A組)の時間割☆

	13:00～13:05	SHR
5	13:05～13:50	産業社会と人間
6	13:50～14:35	
7	14:55～15:40	音楽I
8	15:40～16:25	休み
	16:25～17:25	
9	17:25～18:10	数学I
10	18:10～18:55	

JFAアカデミーに所属し、サッカーのトップアスリートを目指す三島長陵校舎生18名。学校生活を送る静岡県立三島長陵高校は単位制の定時制高校だ。そのため、本校生徒も他校舎とは大きく異なる時間割で授業を受けており、授業は90分1コマが基本。午前中にトレーニングをし、お昼に登校、19時前まで授業を受けるという生活を送っている。決して最善の環境とは言えないが、「何事もプラス思考で乗り越えよう」をモットーに、サッカーに、学習に取り組んでいる。



新しいステージでの活動 1年A組 佐藤大輝

私たち三島長陵校舎生は、静岡県岡崎でサッカー中心の生活を送っています。男子は2チームに分かれ、高円宮杯U-18のプレミアと静岡県リーグに所属しています。両チームとも毎日練習に勤め、土日はリーグ戦で奮闘しています。県リーグでは、現在1位に勝ち点6差をつけられ、3位に位置しています。自分たちのミスで失点することがあるので、それを克服し、残りの試合を全勝することを目標に頑張っています。そして3年生と一緒にサッカーをできる時間を大切にしたいです！

三島長陵校舎

部活動の結果

- ◇バドミントン部
 - ・第61回福島県高等学校体育大会
 - 男子団体 優勝
 - 女子団体 優勝
 - 男子ダブルス 第3位 金子真大・久保田友之祐
 - 女子ダブルス 第3位 由良なぎさ・永井潮勇
 - 高橋明日香・高橋真琴
 - 女子シングルス 第3位 高橋明日香
 - ・第44回東北高等学校バドミントン選手権大会
 - 男子団体 優勝
 - 女子団体 第2位
 - 男子ダブルス 第3位 金子・久保田
 - 女子ダブルス 第5位 高橋・高橋
 - 男子シングルス 第5位 久保田
 - 女子シングルス 第2位 高橋
 - 第3位 由良
 - 第5位 永井
 - ・ジャカルタ遠征強化練習及びジャカルタオープン<U-17>
 - 男子ダブルス 第3位 金子・久保田
 - 女子シングルス 優勝 高橋
 - 第3位 由良
 - 女子ダブルス 優勝 由良・永井
 - 混合ダブルス 優勝 金子・永井
 - 第3位 久保田・由良
 - ・第68回福島県総合体育大会
 - 男子ダブルス 第3位 金子・久保田
 - 第5位 久保田祐(富岡2年)・山田尚輝
 - 高上麟雄・筑後恵太
 - 女子ダブルス 第3位 高橋・高橋
 - 第5位 由良・永井
 - 男子シングルス 第5位 金子・久保田・筑後
 - 女子シングルス 第3位 高橋
 - 第5位 永井・由良
 - ・平成27年度全国高等学校体育大会
 - 男子団体 第3位 (久保田が出演)
 - 女子団体 第2位 (高橋、由良、永井の3名が出演)

猪苗代校舎



インターハイ
1年B組 高橋明日香

初めて出場したインターハイは、中学校までの大会とは大きく違い、とても緊張感がありました。特に団体戦の決勝戦では、プレッシャーに負けてしまい、思うようなプレーができませんでした。目標だった団体優勝に貢献することができず、非常に悔しい思いをしました。しかし、いろいろな経験を積むことはできたと思います。今回負けてしまった悔しさをバネにして、来年の夏の全国選抜大会や夏のインターハイで団体戦・個人戦の両方で優勝できるように、自分自身をレベルアップさせていきたいと思います。

☆月曜日(B組)の時間割☆

1	8:50～9:40	
2	9:50～10:40	スポーツII
3	10:50～11:40	
4	11:50～12:30	移動
	12:30～12:40	SHR
	12:40～13:20	昼休み
5	13:20～14:10	国語総合
6	14:20～15:10	数学I
	15:10～15:25	清掃
	15:25～15:30	SHR
7	15:40～16:30	コミュニケーション英語I

猪苗代校舎は、バドミントンのトップアスリートを目指す9名の生徒が学校生活を送っている。彼らが所属するピクトリープログラムは、国内外の大会で活躍するバドミントン選手を多数輩出している。バドミントンの練習やトレーニングは、基本的に猪苗代町総合体育館(通称「カメリーナ」)で行っている。通常自転車で移動しているが、猪苗代は県内でも雪深い地域として有名だ。冬になると自力での移動は困難な状況もある。そうした過酷な状況でも、目標を高く掲げ、日々練習に励んでいる。



普段は3つの校舎に分かれて学校生活を送っている生徒たちが、開校式以来3ヶ月ぶりに顔を合わせました。この集いを通して、ふたば未来学園高校生としての一体感を高め、親睦を深めることを目的に、いわき海浜自然の家で3日間を過ごしました。

14日

野外炊飯

初めてのグループ活動でアイスブレイク。どの班もできあがったポークカレーをおいしそうに食べていました。

各校舎取り組み発表会

本校舎
ふるさと創造学クラス代表演劇発表

三層校舎

サッカーパフォーマンス「走って蹴って飛べ」

猪苗代校舎

バドミントンパフォーマンス
「バドミントン体験」

——見て、やってみよう——

本校舎生が発表したのは、平田オリザ先生の指導のもとに取り組んだ演劇です。生徒の投票により、学校代表2チームが選ばれました。各校舎の取り組みを互いに見て、生徒たちは刺激を受けたのではないのでしょうか。



心をひとつに FUTURE SCHOOL



ふたば未来の集い 7月14日(火)~16日(木)

ワークショップ

テーマは「震災後受けてきた支援を思い起こし、高校生の自分ができるか。このワークショップの中で、小泉進次郎復興大臣政務官も生徒たちへ激励をくださいました。」



リレー優勝チームが秋本さんと記念撮影

スポーツ講座 15日

講師 ● 秋本真吾氏

講師の秋本さんは、大熊町出身の元プロ陸上競技選手で、ふたばの教育復興サポーターとして来てくださいました。仲間とともに身体を動かす、全体の連帯感を高めるため、トレーニングのあと、リレーに挑戦しました。その後の講義では、「本気になれば、本気になれば、勝つても負けても気持ちいい」「チャレンジしよう。成功も失敗も自分のためになる。」「夢には希望を！目標には期限を！」など、たくさんのお話を教えていただきました。

「リレー」
1年3組 藤原和明

今回のスポーツ講座に参加して、どうしたら速く走ることができるのか理解できました。速く走るには、正しい姿勢と重心の置き方がとても重要であり、そのためには自然体が一番大切だと学びました。今回の経験を野球部の活動にも活かし、目標である公式戦一勝に向けて頑張っていきたいと思っております。



秋本さんによるハードルのデモンストレーション



集いを終えて

この集いも含めたふたば未来学園での行事や取り組み、学びを通して、支えられる側という受動的な立場から、主体的に社会に関わる姿勢が変わってほしいと思います。



「演劇発表」 1年1組 松本圭平

演劇を終えて分かったことがあります。中学生の頃にも文化祭の出し物で劇をやったことがあるのですが、そのときは、台詞などの大まかな流れはできていて、あとは演じるだけでした。しかし、今回の演劇は、地元の人が取材するところから始まり、台詞を考え、劇の流れを決めるという、土台からすべて自分たちで創るものでした。とても難しかったです。考える力や伝える力を伸ばすことができました。貴重な体験になりました。



16日 生徒会企画イベント

生徒会のメンバーが準備に多大な労力をかけてくれたチーム対抗レク。今流行の「リアル脱出ゲーム」は非常に難問で、成功チームはゼロでした。ここで用意されたのはリアルな「協働」の場。チーム内でコミュニケーションを取り、一つの課題をクリアすることを目指しました。



「生徒会企画」 1年4組 高橋涼花

私たちは、生徒会で「脱出ゲーム」と「クイズ大会」を企画しました。集いの3週間前から準備を始めましたが、課外授業で来られない人がほとんどでした。そこで私一人で作業をしたり、課外授業後にみんなで集まって夜遅くまで準備をしたり、とても大変でした。しかし、集いでの企画は成功し、生徒会メンバーそれぞれが成長できたと感じるイベントになりました。



ここから始まる FUTABA FUTABA



先生チームも挑戦



各校舎代表が点火

キャンプ・プファイア

普段は異なる生活を送る三校舎の生徒が一堂に会し、共感できる身近なテーマについて「未来アイスカツシヨーン」をしました。最後は全員が輪になって校歌を熱唱。



「ワークショップ」 1年2組 宮本昌平

初めてその場に集まったメンバーで意見をまとめるのはとても難しいと感じました。しかし、このような活動をする、コミュニケーション能力が鍛えられると思います。全校生徒の前で発表した時はとても緊張しましたが、挑戦してみてもよかったです。

強風のため、残念ながら途中で消火することになりました。生徒たちも悲しそうでした。



企画した生徒会メンバー

寮生活



■立志寮外観



7月29日(水)、広報委員が取材のため、立志寮を訪れました。ちょうどこの日は、中学三年生対象の体験入学が行われていた日です。参加した中学生の姿を見ていると、早いもので入寮から数ヶ月経ったのだと実感します。

さて、そんな体験入学も落ちついた頃、生徒達の寮生活について、寄宿舎指導員の千葉先生に尋ねてみました。

寮生たちは、初めての高校生活と「寮生活」に慣れず、苦戦する日々が続きました。朝はなかなか起きられない、整理整頓が出来ない。入寮当初はそんな生徒も多かったようです。入寮時から既に身の回りのことがきちんと出来る生徒も多く、特に洗濯の問題は深刻でした。



■玄関

■廊下照明が設置された



■トイレのホワイトボード
■生活状況を把握できるように



■図書

■図書や雑誌を行う



■図書ホワイトボード
■様々な種類のルールが書き込まれている

たとえば、夜にある生徒が洗濯乾燥機を使ったが、洗濯物を取らず放置(数時間)……。誰かが洗濯物を取り出し、カゴに出してあげるが、またも放置(しかも数日)……。こういったことや、忘れ物や落とし物などの問題が、男子寮ではよく起きます。それに比べると、女子は男子より人数が少ないこともあり、お互いに声を掛け合い、効率よく洗濯しているようです。

寮生たちに「自分たちでよりよい寮を創っていく」という自覚を持ってもらうため、これまで先生方が時々寮を訪れ指導をしてきました。時には抜き打ち指導もあり、常に身の回りを綺麗にと心がける良い緊張感が増しました。また、意識を高める方法として、男女共に各階のリーダーを決め、点呼や舎監(監督員)への報告などを任せるようにしました。その結果、自分たちで問題を解決しようという気持ちが、徐々に高まってきているようです。

週末の滞宿や長期休業中など、自宅で過ごす時は、寮生活と同じように規則正しい生活を心がけてほしいと思います。来年入寮してくる後輩たちのためにも先輩としてお手本になる寮生活を送ってもらいたいですね。

FOCUS ふたば未来

食堂

本校には奥立高校で唯一食堂がある。本校舎生徒の約半数を占める寮生の食事を賄うため、寮と学校双方に食堂を完備し、株式会社メフォスの方々が調理を担当している。学校の食堂は、寮生だけでなく、自宅通学生や、先生方も利用できる。通常、メニューは2種類で、今後増える可能性もあるそう。寮生は栄養面のバランスを図るため、メニューが指定されているが、寮生以外は自由に選択することができる。400円で、主菜に副菜2品、汁物までついており、栄養価も計算されている。デザートは、メニューに含まれる日もあれば、食いたい生徒だけプラス50円をつけられる日もある。生徒にも先生方にも「非常においしい」と好評で、毎日新しいメニューが出てくるので、次はどんなメニューが出てくるのが、皆楽しみにしている。

夏休みが明けた始業日の食堂に足を運ぶと、この日のメニューは「ハンバーグ」と「白身魚のフライ」の2種類。4校時終了のチャイムがなると、生徒たちは我先にと食堂にやってくるため、いつも食堂には長蛇の列ができる。ごはんの量は自分で選べるので、食べ盛りの運動部の生徒は



ちは、漫画に出てくるような山盛りごはんを手に、仲間と談笑しながらごはんを食べていた。また寮生は、昼食を食べたかどうかをフロアリーダーがチェックしている。食券を出して食事を食べるというルールになつていたが、忘れてくる生徒もおり、全体の把握ができなかったため、また、長期休業中の寮では、朝起きられずに朝食を食べない生徒もいるという。食事は活力の源、3食しっかり食べるという意識を各自が持ち、生活してほしい。これだけバランスのとれたおいしい食事を提供してくれるメフォスの方々への感謝の気持ちも忘れずに……。



ふたばの
ひかりに



保護者と教師の会
会長
根本みゆき

平成 27 年 4 月、ふたば未来学園高等学校が開校し、ようやく双葉郡内にも子どもたちの元気な姿を見ることができ、新しい風が吹き始めました。

東日本大震災・原発事故により、当たり前だった生活が一変し、不安を抱えての生活を余儀なくされました。このような環境の中、不安と心配を抱く一方、希望に満ちた子どもたちの姿に、親として、誇らしさと頼もしさを感じながら見送った保護者の方も多かったと思います。

そんな中、数々の著名人や関係機関、そして先生方の導きにより、他にはない素晴らしい教育環境ができ、生徒自身が考え、創造し、学んでいく教育という目標に向かって進む子どもたちが、将来地域の支えとなり、双葉郡の大きな担い手として羽ばたいてくれることを確信しております。

まだまだ不自由な生活が続きますが、保護者の方々や地域の皆様のご理解ご協力をいただき、子どもたちの笑顔が、次世代に繋がっていきけるよう、全力でサポートしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

本校舎部活動の結果

◇男子サッカー部

- ・高内宮杯 U-18 サッカーリーグ 2015 地区リーグ (F3)
- 第一節 対 小高工業 ○2-0 (得点者 坂下和己2)
- 第二節 対 相馬東 ●1-2
- 第三節 対 相馬農業 ○1-0 (得点者 渡部椋太)
- 第四節 対 新地 ○5-0 (得点者 石井仁基2、坂下和己2、渡部椋太)
- 第五節 対 伊町 ○5-0 (得点者 佐藤迅3、石井仁基、OG)
- 順位決定リーグ
- 対 小高工業 ○1-0 (得点者 渡部椋太)
- 順位決定リーグ
- 対 相馬東 ○6-3 (得点者 佐藤迅3、坂下和己2、山田大輝)

相双地区 1 位になり、2016 年 1 月の県リーグ参入戦への出場権獲得

◇女子サッカー部 (富岡高校との合同チーム)

- ・第 61 回福島県高等学校体育大会
- 1 回戦 対 磐城桜が丘 ○5-1
- 決勝 対 桜の聖母学園 ○1-0 優勝
- ・第 57 回東北高等学校サッカー選手権大会
- 1 回戦 対 明桜(秋田) ○4-3
- 決勝 対 聖和学園(宮城) ●0-5
- 準優勝 (東北第 2 代表 インターハイ出場)
- ・平成 27 年度全国高等学校総合体育大会
- 1 回戦 作樂(岡山) ●1-7 敗退

◇野球部

- ・第 67 回秋季東北地区高等学校野球大会相双支部予選 出場

◇レスリング部

- ・第 68 回福島県総合体育大会
- 1 年生大会 優勝 近野 謙一郎

◇陸上競技部

- ・第 61 回福島県高等学校体育大会相双地区予選会
- 1 年 3000m 第 2 位 遠藤 健次
- 第 3 位 根本 翔
- ・第 68 回福島県総合体育大会相双地区予選会
- 少年 B 100m 第 3 位 井出 大雅
- 少年 B 3000m 第 3 位 根本 翔
- ・第 55 回福島県高等学校新人体育大会相双地区予選会
- 4x100mR 第 3 位
- 根本 翔・井出大雅・山田拓南・皆川由希

◇剣道部

- ・第 68 回福島県総合体育大会相双地区大会
- 女子個人 第 2 位 坂本 瑞奈



ケータイ 連絡網 について

本校では一斉メール配信システムを導入しています。子どもたちの安全を守り、学校での活動を円滑に行うためのものです。多くの方のご登録をお願いいたします。

登録の仕方

- ・futabamirai-pta@ktaiwork.jp に空メールを送信してください。
- ※登録が完了した後、その旨の通知が届きますので、大切に保管してください。
- ※迷惑メールフィルタを設定していると受信ができません。事前にドメインからのメールを受信することを許可するように設定変更をお願いします。
- ※この連絡網は株式会社アルカディアによるもので、上記目的以外では使用しません。また、メールアドレス以外の個人情報は一切必要ありません。

ふたば未来学園高校ホームページでも、随時生徒の学校生活の様子をアップしています。ぜひご覧下さい。

<http://www.futabamiraigakuen-h.fks.ed.jp>



少しずつ環境が整ってきました。生徒たちが活用しやすい図書館を目指し、今後も環境整備に努めていきたいと思えます。ボランティア活動に参加してくれた皆さん、お忙しい中本当にありがとうございました。



図書館作業について

7月から8月にかけて、保護者の皆様へ、図書館ボランティア作業のお願いをいたしました。本校図書館は、保護者、地域、県立図書館、県内司書の方々など、非常に多くのお力添えをいただきました。

役員紹介

本部役員(本部役員は総務委員を兼ねる)

●会長 根本みゆき

●副会長 日下 栄(学生委員兼)

●監査 山田 伸江

専門委員

●進路対策 本多 明美 新妻 直美

田熊ゆみ子

●健全育成 小林 俊一(担当教員)

大和田成美 池田 知実

齋藤美和子

●調査広報 渡部 友幸(担当教員)

出雲 三和 伊東 建策

遠藤 仁子 酒井俊一郎

矢沢 智子(担当教員)

事務局(担当教員)

今野 貴文(総務) 山野通美和

荒 峰雄

編集後記

ふたば未来学園高校PTA会報第1号は、歴史の始まりを告げるようなものにしたという思いで、バツと頭に浮かんだのは「翔」というあだ文字です。矢沢先生をはじめ、広報委員全員で難字を決めることから始めた会報づくりは、私たちも学ぶことが多く、何度も話し合い、様々なことを調査し、記事を書き集め、大変だけれども励まし合いながら楽しく、子供を産み育てるような気持ちで作ってきました。先ずは読んで頂いた皆様からの要望やご意見ご感想などございましたら、遠慮なくお寄せ下さい。会報第2号作りの参考にさせていただきますので今後とも何卒よろしくお願いたします。

PTA会報「翔」第1号の製作に携われたことを調査広報委員全員が大変光栄に思っています。ご協力いただきました皆様へ心から感謝いたします。

本当にありがとうございました。